

武術太極拳

WUSHU TAIJIQUAN 1993.12 NO.48

1992年8月7日第3種郵便物認可
1993年12月10日(毎月1回10日発行)

編集・発行

社団法人日本武術太極拳連盟

JAPAN WUSHU TAIJIQUAN FEDERATION

〒102 東京都千代田区五番町14 光文書院ビル5階

TEL 03(3265)9494 FAX 03(3265)9550

発行人 村岡久平

発行日 1993年12月10日(毎月10日発行)

定価 1部 200円

年間購読料 2,400円(送料込)

郵便振替 東京 9-180187

太極拳・女子が優勝 男子は2位

第2回世界
武術選手権

日本選手健闘 3位に3人 全員が入賞
マレーシアに51チーム660人が集う

マレーシアの首都クアラルンプールで開かれた「第2回世界武術選手権大会」は11月21日から27日まで、51ヵ国・地域から660人にのぼる精鋭が参加して挙行された。

男女各4人、8選手が出場した日本はよく健闘、良好な成果を取めた。

女子太極拳の種目で増田尚子選手は9.71を獲得、堂々第1位・金メダルに輝いた。

男子太極拳では増田勝選手が善戦、第2位に立った。つづいて女子南拳で勝部典子選手が、女子長拳で松村紅選手、男子棍術吉田博選手が、それぞれ第3位に入った。松村、吉田両選手は国際競技大会には初出場。さらに阿部秋子、平井裕二、高山宗久の各選手も、国際大会初出場ながら好成績を残した。全選手が入賞を果たした。

男子で太極拳が42人、長拳が73人、女子の太極拳が40人、長拳が65人が出場するという激戦の今大会であったが、全体的にアジア勢が欧米選手を圧倒していたのが目立った。

中国に追いつこうとする日本に対して、近隣諸国・地域の日本を追いこそう、とする意欲は大きく、来年秋の広島アジア競技大会を目指すアジアの拳友のファイトは、実に旺盛なものが感じとられた。

また一昨年の北京での第1回世界選手権大会、昨年のソウルでの第3回アジア選手権大会からみると、特に東アジアおよび東南アジア諸国・地域のレベルの向上は顕著なものがある。

特にアジア勢は、来秋の広島アジア大会への期待と関心は実に大きなものがあり、今回の大会は広島大会への前哨戦の観もあった。

日本は今回の経験を踏まえ、アジアの各国の状況をよく分析し、特に選手の世代交替が進められている中国の動向を見きわめ、来年の広島に向かって、新たな決意でのぞむことが肝要である。



女子太極拳で優勝した増田尚子選手(中央)